

資料1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名: 香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 香取市地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社	小見川循環バス(西ルート)	運行状況の分析を行い、平成28年4月には電車等への接続を考慮した時刻表改正を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 計画目標12,500人に対し、実績は14,877人となった。	今後も継続して運行状況の分析や住民ニーズの把握を行うとともに、適切なタイミングでの時刻表改正や、利用促進の取り組みを実施していく。
株式会社千葉交タクシー	小見川乗合タクシー	平成27年10月より本格運行へ移行、利用者の意見聴取や運行業者との意見等を受け、予約受付時間について一部変更を実施。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 計画目標5,100人に対し、実績は5,133人となった。	今後も継続して運行状況の分析や住民ニーズの把握を行うとともに、利用促進の取り組みを実施していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	香取市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	香取市地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>香取市では平成21年2月に策定した地域公共交通総合連携計画に基づき、市内の公共交通不便地域等の解消を図るため小見川循環バスの運行を開始したが、人口の減少、人口密度の低下や高齢者の増加といった社会の変化が進行し、集落が分散している地区や道が狭隘な地区が多い本市では、従来の大型車による路線定期運行では対応が困難になってきた。そこで、デマンド交通の有用性や持続可能性を検証することなどを目的として、小見川中央・東・南地区において乗合タクシーの試験運行を実施した結果、有用性や接続可能性の検証ができたと判断し、本格運行へ移行し、公共交通空白地域の削減、縮小を促進する。</p> <p>小見川西地区においては、同計画に基づき実施した実証運行事業の成果を踏まえ、引き続き持続可能な運行を確保する必要があることから、小見川循環バスを継続して運行し、生活路線としての交通手段を確保することにより、公共交通空白地域の削減、縮小を図る。</p>

平成28年度 香取市地域公共交通協議会 (千葉県香取市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通の現況

香取市は、平成18年3月27日に1市3町(佐原市・小見川町・山田町・栗源町)が合併して誕生した。
千葉県に次いで県内第4位の広大な市域面積(262.35km²)を有し、東西約21.2km、南北約22.7kmと円形の地勢であることに加え、居住面積が市内全域に分散していることから、都市部と比較して自家用車への依存が高まっている。



事業の目的・必要性

香取市では平成21年2月に策定した地域公共交通総合連携計画に基づき、市内の公共交通不便地域等の解消を図るため小見川循環バスの運行を開始したが、人口の減少、人口密度の低下や高齢者の増加といった社会の変化が進行し、集落が分散している地区や道が狭隘な地区が多い本市では、従来大型車による路線定期運行では対応が困難になってきた。そこで、デマンド交通の有用性や持続可能性を検証することなどを目的として、小見川中央・東・南地区において乗合タクシーの試験運行を実施した結果、有用性や接続可能性の検証ができたことと判断し、本格運行へ移行し、公共交通空白地域の削減、縮小を促進する。

小見川西地区においては、同計画に基づき実施した実証運行事業の成果を踏まえ、引き続き持続可能な運行を確保することから、小見川循環バスを継続して運行し、生活路線としての交通手段を確保することにより、公共交通空白地域の削減、縮小を図る。

事業の概要

平成21年10月に導入した「小見川循環バス」は平成24年4月から本格運行として実施。東南ルート及び西ルートの2系統で運行していたが、平成25年10月からは東南ルートを休止して、同ルートの運行区域においてデマンド型の乗合タクシーを運行している。

【コミュニティバス「小見川循環バス(西ルート)」】

事業者名：千葉交通株式会社
 運行系統：上の台経由、城山経由 計 26.5km
 運行日：月曜～金曜(土日曜日、祝日、年末年始運休)
 運行時間帯：6時25分～18時31分
 運行本数：8便/日
 運行車両：日野リエッセ(乗車定員37名) 1台
 運賃：大人300円、中高生100円
 小学生以下・障害者手帳所持者・・・無料
 回数乗車券・・・12枚綴り3,000円(大人のみ)

【デマンド交通「小見川乗合タクシー」】

事業者名：株式会社千葉交タクシー
 運行区域：小見川中央・東・南地区
 運行日：月曜～金曜(土日曜日、祝日、年末年始運休)
 運行時間帯：8時～17時
 運行本数：9便/日
 運行車両：トヨタコンフォート(乗車定員5名) 2台
 運賃：大人400円、中高生200円、小学生100円
 障害者手帳所持者・介助者・・・無料
 回数乗車券・・・12枚綴り4,000円(大人のみ)

面積	262.35km ²
人口 (H29.1.1時点)	78,982人
15歳未満	8,555人
	26,212人
65歳以上	33.2%
高齢化率	30,722世帯
世帯数	

協議会開催状況

○協議会の開催状況 5回開催

- ・第17回(平成27年6月18日)
ネットワーク計画を協議
- ・第18回(平成28年1月7日)
事業評価について(書面会議)
- ・第19回(平成28年6月22日)
ネットワーク計画を協議
- ・第20回(平成28年7月8日)
循環バス路線変更について(書面会議)
- ・第21回(平成29年1月23日)
事業評価について、循環バス路線変更について

前回の事業評価結果の反映状況

平成25年10月からのルート変更を受け、その後も継続的に利用者の意見聴取や利用促進の取り組みを実施。

小見川循環バス(西ルート)については、平成28年4月に電車等への接続を考慮した時刻表改正を実施。

また小見川乗合タクシーについては、利用者ニーズ等を反映させたうえで、平成27年10月より本格運行への切り替えを実施した。

定量的な目標・効果

【目標】

小見川循環バス(西ルート):年間利用者数 12,500人

小見川乗合タクシー:年間利用者数 5,100人

小見川循環バス(西ルート)は、東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者の輸送に対応することとし、目標値はその要因を加味した値を設定する。小見川乗合タクシーは、東南ルートの利用者が円滑に乗合タクシーへ移行されたと見られる値を設定することとし、西ルートで対応する高校生を主とした利用者は除いた値とする。

【効果】

小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、交通結節点である小見川駅と結び、鉄道等との効果的な連携を推進することで、地域間の活発な交流を促進し地域の活性化に寄与する。

目標効果の達成状況

【小見川循環バス(西ルート)】 年間利用者数:14,877人

- ・当初目標値を達成することができた。
- ・駅から利用する高校生及び交通不便地域である小見川西地区の主に高齢者等にとって、日常生活に必要不可欠な移動手段が確保・維持できた。

【小見川乗合タクシー】 年間利用者数:5,133人

- ・小見川循環バス(西ルート)で対応することとした高校生を主とした利用者を除き、旧小見川循環バス(東南ルート)の利用者が乗合タクシーへ移行されたとともに、路線運行から区域運行に運行形態が変更になったことにより、目的地や自宅がバス停から遠い者にも利用者が拡大したと見られる。
- ・小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保された。

アピールポイント

バス利用者の現況及びニーズの把握、運行業者からの意見聴取を実施し、路線定期運行の循環バスを運行。

また地域ニーズに十分応えられていない状況にある路線については、デマンド交通に移行し、引き続き有用性や持続可能性等を検証し、利用促進を図っている。

今後の改善点

【小見川循環バス(西ルート)】

今後も継続して運行状況の分析や住民ニーズの把握を行うとともに、適切なタイミングでの時刻表改正や、利用促進の取り組みを実施していく。

【小見川乗合タクシー】

今後も継続して運行状況の分析や住民ニーズの把握を行うとともに、利用促進の取り組みを実施していく。

○参考資料として以下の資料を添付

- ・地域の公共交通体系図(鉄道、民間路線バス、コミバス 等)
- ・補助対象事業の運行系統図
- ・補助対象事業の実績データ(利用者数、収支 等)